A
D
ARY

昭和61年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
―公開技術セミナー―
（電気通信）

昭和62年３月

国際協力事業団

研修事業部

JICA LIBRARY
1052664[8]

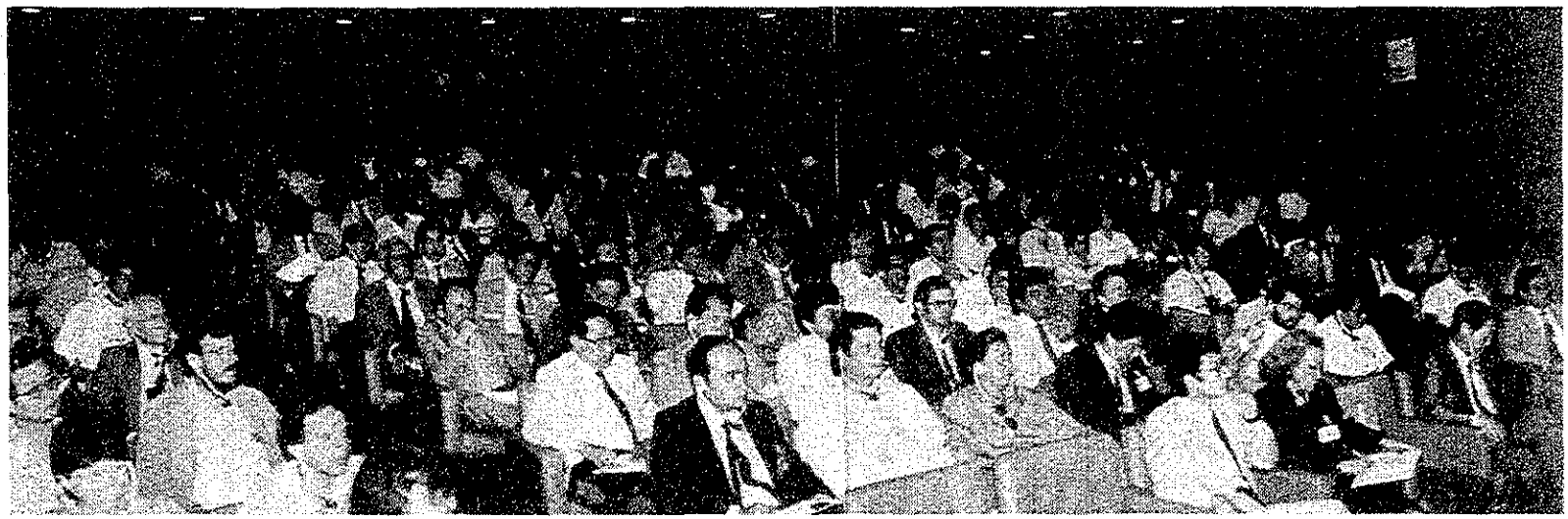
国際協力事業団

受入月日	'87.7.07	615
登録No.	16622	647
		TAD

ブラジル（サン・パウロ）における公開技術セミナー

写真左；セミナー会場にて（男性左から Mr. Lisboa（Telesp），谷脇団員，橘ＪＩＣＡ同窓会事務局長，平沢団員，増田団長，新山同窓会々員，中川団員，女性はコンパニオン）

写真下；セミナー会場内，セミナー初日は約２３０人の参加者があり会場はほぼ満席となった。



はじめに

本報告書は帰国研修員フォローアップ事業の一環として昭和６１年度より実施されることになった６分野の公開技術セミナーの内，メキシコおよびブラジルで開催された電気通信分野のセミナーの開催結果を取りまとめたものである。

帰国研修員に対する巡回指導は，従来特定集団研修コースの帰国研修員を主として対象に実施してきたが，昭和６１年度からこれに加え指導領域を特定コース分野に限定せず，これに隣接する関連分野にまで拡げ，また，対象者も帰国研修員にとどめず，帰国研修員の所属先および関連機関の関係者まで含めることにより，より大きな指導効果を上げることを目的とした公開技術セミナーを実施することとなったものである。

本件電気通信分野の公開技術セミナーは初年度の開催としてはかなりの成果を上げたものと思料されるが，反面，今後の検討を要する点も多くあり，今回の経験を踏まえさらに充実したセミナーの開催に向け努力いたしたい所存である。

今回のセミナー開催にあたり多大の御協力と御尽力を頂いた郵政省，ＮＴＴ，ＫＤＤ，外務省，在外公館，ＪＩＣＡ派遣専門家，ＪＩＣＡ帰国研修員同窓会および各国の関係機関各位に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和６２年３月

国際協力事業団
研修事業部
部長　岡部和夫

目　　次

I　報告要約 …… 1

II　セミナー開催概要 …… 3

1. 開催目的 …… 3

2. セミナー分野・開催地 …… 3

3. セミナーチーム構成 …… 3

4. セミナー内容 …… 4

5. 全体日程 …… 4

III　開催地別報告 …… 5

1. メキシコ …… 5

2. ブラジル …… 19

IV　検討事項 …… 30

V　別添資料 …… 31

I　報　告　要　約

1. 開　催　結　果

(1) メ　キ　シ　コ

イ. 開　催　期　間　　１９８７（昭和６１）年１２月３日から５日（３日間）

ロ. 開　催　場　所　　通信運輸省講堂

ハ. 参　加　人　数　　延約１６０人（１日平均約５０人）

ニ. セミナー概況　　開催日前日まで出席見込人数が不確定であったが，期待以上の参加者があり，予定の時間を超過する程の質問や討議が行われ，特に最終日の討論では具体的な協力要望が続出し，我が国に対する期待の強さが感じられた。

(2) ブラジル（サン・パウロ）

イ. 開　催　期　間　　１２月１０日～１１日（２日間）

ロ. 開　催　場　所　　サン・パウロ州電気通信公社講堂

ハ. 参　加　人　数　　延約３２０人（初日約２３０人・２日目約９０人）

ニ. セミナー概況　　日伯両機関の本セミナーに対する強い期待からかなり精力的な事前準備が行なわれたこともあって，当初予想を超える関係者が出席し，また地元新聞４紙およびテレビニュースでも報道される程反響を呼んだ。

特にＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会が本セミナー開催に当たり主導的役割を果たし，成功に大きく貢献したことは同窓会活動の今後のあり方の好例となりうると思料される。

2. 検　討　事　項

(1) 両国におけるセミナーは初年度としては概ね成功したものと思われるが，今後同種セミナー開催に当たり検討を要する点は以下の通りである。

イ. 今回は公開技術セミナー開催の初年度であったため事前準備に時間的制約があったが，今後はセミナーの企画，関係機関との根回し，募集等に充分な時間（６カ月程度）をとる必要がある。

また，セミナー用の資料，視聴覚教材等の開発をも検討する必要がある。

ロ. 今回の公開技術セミナーは特定の狭い分野の技術の紹介ではなく，当該分野の裾野を広げより多くの関係者を対象とすることを目的としたため内容が一般的にならざるを得なかった。

ハ．今回のセミナー開催には事前根回しから運営までＪＩＣＡの海外事務所や帰国研修員同窓会等に人員，経費面で相当の負担を負わせたところ，今後はこの点充分な配慮が必要である。

(2) 公開技術セミナーの分野および開催地の選定については以下の諸点が重要な要素であると思料される。

イ．当該分野の我が国の技術水準が世界的に見てトップレベルにあり，かつ，この種セミナーで充分な講演等が可能な人材が確保出来ること。

ロ．開催国における当該分野のＪＩＣＡの協力実績がかなりあり，また，先方相手機関に専門家が派遣中であること。

ハ．開催国に中規模以上のＪＩＣＡ海外事務所があるか，または同窓会の協力を得られる国であること。

Ⅱ　セミナー開催概要

1. 開催目的

従前巡回指導は，専ら特定研修集団コースの帰国研修員を主対象に実施してきたが，今後これに加え，指導領域を特定コース分野に限定せず，これに隣接する関連分野まで拡げ，かつ，対象者も帰国研修員にとどめず，所属先関係者は勿論のこと，関連機関の者まで含めより大きな指導効果を上げることを目的として昭和６１年度から下記内容の本件セミナーが開催されることとなった。

(1) 当該分野に関するＪＩＣＡ事業現状の紹介を行なう。

(2) 当該分野に関するわが国の最新の技術情報の提供。

(3) 当該分野における現地適正技術等，技術的問題点を把握し，その解決のための助言を行なう。

(4) 当該分野に関するわが国の研修に対するニーズの把握を行なう。

(5) 帰国研修員及び受講者等を含む評価会を開催し，本セミナーに対する評価を行なう。

(6) 以上の結果を踏え，当該分野における各研修コースプログラムの改善，新設コース設定検討等，今後の研修員受入事業に係る各種提言を行なう。

2. セミナー分野，開催地

(1) セミナー分野　：　電気通信

(2) 開　催　地　：　メキシコ，ブラジル（サン・パウロ）

(3) セミナーチーム派遣期間　：　１９８７（昭和６１）年１１月２９日～同１２月１６日（１８日間）

3. セミナーチーム構成

(1) 団長（国際電気通信）　増田輝夫
ＫＤＤ国際部調査役

(2) 団員（国内電気通信）　平沢　勝
ＮＴＴ中央電気通信学園国際研修部門担当部長

(3) 団員（電気通信行政）　谷脇康彦
郵政省通信政策局国際協力課事務官

(4) 団員（技術協力）　中川和夫
ＪＩＣＡ研修第２課課長代理

4. セミナー内容：（両開催地共通）

(1) ＪＩＣＡ事業概要

(2) 日本の電気通信行政

(3) 日本の国内電気通信に係る現状と最近の技術動向

(4) 日本の国際電気通信に係る現状と最近の技術動向

(5) 討議（問題点および協力要望等）

5. 全 体 日 程

日順	月日	曜	日　　程
1	11/29	土	東京 ⟶ メキシコシティー
2	30	日	ＪＩＣＡ事務所，専門家，通訳との打合せ
3	12/ 1	月	ＪＩＣＡ事務所，日本大使館，通信運輸省表敬訪問，打合せ 電気通信学園視察
4	2	火	会場設営，通訳との打合せ等の事前準備
5	3	水	公開技術セミナー開催（於メキシコシティー　－詳細後記－）
6	4	木	
7	5	金	
8	6	土	メキシコシティー ↘
9	7	日	サン・パウロ
10	8	月	ＪＩＣＡ事務所，サン・パウロ総領事館表敬訪問，打合せ 通訳との打合せ
11	9	火	サン・パウロ州電気通信公社表敬訪問，会場設営 ビラマリーナ電話局視察
12	10	水	公開技術セミナー開催（於サン・パウロ－詳細後記－）
13	11	木	
14	12	金	ＪＩＣＡ事務所，サン・パウロ総領事館に報告
15	13	土	資料整理
16	14	日	サン・パウロ ↘
17	15	月	
18	16	火	東　京

Ⅲ　開催地別報告

1. メキシコ

1. 開催国・地　　メキシコ・メキシコシティー
2. 開催場所　　メキシコ政府通信運輸省電気通信総局講堂
3. 開催年月日　　１９８６（昭和６１）年１２月３日～同５日（３日間）
4. 共催機関　　通信運輸省電気通信総局（ＤＧＴ）
5. セミナー日程

１２月３日（水）（１日目）

(1) ９：３０～９：４０　　Luengas 通信運輸省電気通信総局長挨拶

９：４０～９：５０　　増田団長挨拶

９：５０～１１：００　　「ＪＩＣＡ事業概要」の説明（中川団員）

イ．説明（３０分）

ロ．１６㎜フィルム　ＪＩＣＡ２４時間（２０分）の上映

(2) １１：００～１２：００　　「ＪＩＣＡの対メキシコ協力概要」

（細野ＪＩＣＡメキシコ事務所長）

配布資料：スペイン語版ＪＩＣＡのしおり

(1) １２：２０～１５：００　　「日本の電気通信行政」の説明（谷脇団員）

配布資料：OUTLINE OF TELECOMMUNICATIONS ADMINISTRATION

１２月４日（木）（２日目）

－国内電気通信（平沢団員）－

(1) ９：３０～１１：００　　「ＮＴＴ事業概要」

スライドを使用して説明

(2) １１：００～１２：００　　「ＩＮＳ（高度情報通信システム）の現状」

ＶＴＲ使用（１８分）

配布資料：INFORMATION NETWORK SYSTEM

－国際電気通信（増田団長）－

(1) １２：２０～１４：００　　「ＫＤＤ事業概要）

ＯＨＰを使用して説明

ＶＴＲ使用（２０分）

(2) １４：００～１５：００　　「国際通信のための網管理センター」

ＶＴＲ使用（５分）

配布資料：THE INTERNATIONAL NETWORK MANAGEMENT CENTER

１２月５日（金）　（３日目）

討　　論

(1)	９：３０～１０：３０	「メキシコにおける電気通信の現状と今後の計画概要」についてＤＧＴのMr. Tiradoが説明
(2)	１０：３０～１２：００	上記説明を踏まえての討論（全員）

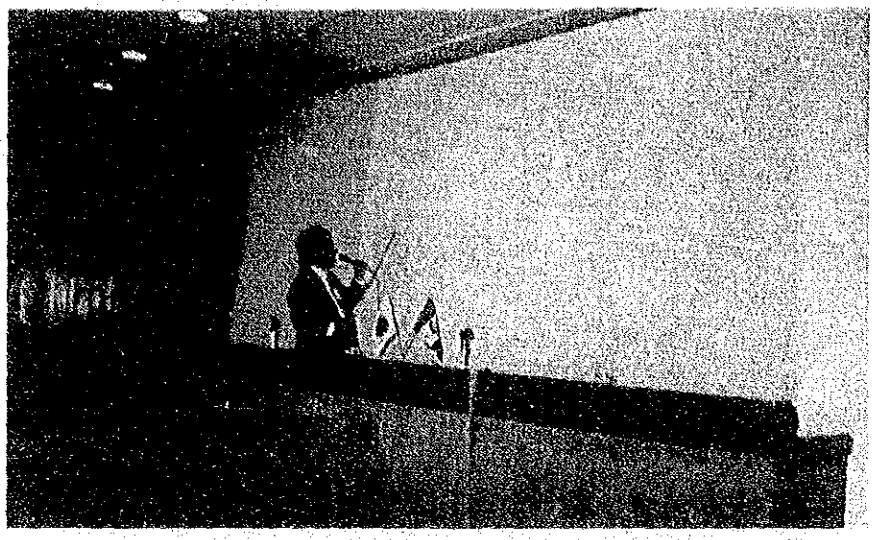
討　　論　（全　員）

(1)	１２：２０～１５：００	「日本に対する協力要望」についての討論（全員）

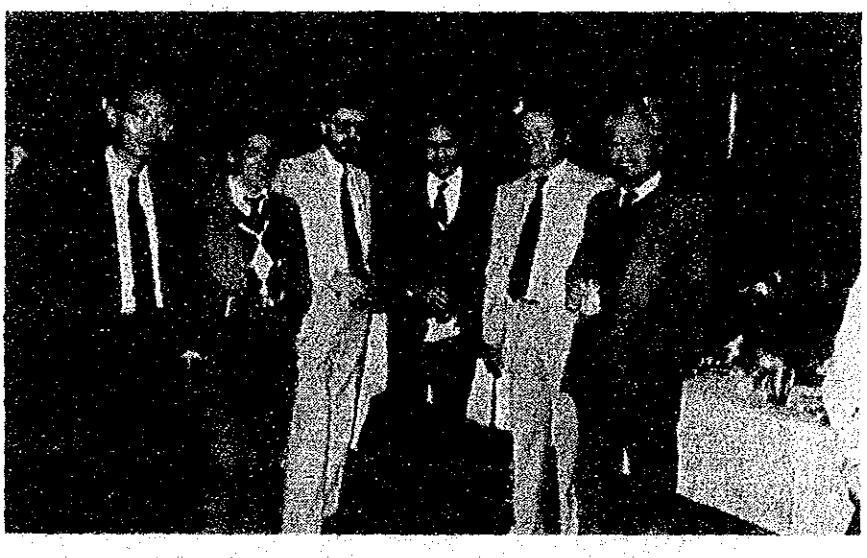
6. 関連写真（メキシコ）

セミナー初日の冒頭関係者の紹介
左から甲斐専門家，谷脇団員，増田団長，Luengas DGT総局長，平沢団員，細野ＪＩＣＡメキシコ事務所長（司会進行は中川団員が担当）

セミナー聴講者（１日平均約５０人，延約１６０人（３日間）の参加者があり，連日予定の時間を超過する程の質問や討議が行なわれた。



ＯＨＰを使用してＪＩＣＡの対メキシコ協力概要の説明を行なう細野ＪＩＣＡ事務所長



セミナー関係者，帰国研修員との懇談（左端甲斐専門家，４人目がメキシコ側の発表を行なったＭｒ．Ｔｉｒａｄｏ（ＤＧＴ））

7. 詳　細　日　程

(1)　１１月２９日（土）　　メキシコシティー着

(2)　　３０日（日）　　・細野ＪＩＣＡメキシコ事務所長，金城所員，甲斐専門家および通訳（阿由葉恵利子，鈴木恵子両氏--メキシコ在住邦人）と打合せ

(3)　１２月　１日（月）　　・日本大使館表敬訪問（甲斐公使，小倉書記官）

・ＪＩＣＡメキシコ事務所にて打合せ

・通信運輸省電気通信総局（ＤＧＴ）Luengas 総局長表敬およびＤＧＴ関係者と打合せ

・電気通信学園（ＥＮＴＥＬ）視察

同学園はＪＩＣＡの第三国研修実施機関であるため，Ramos 学園長および同学園のスタッフと研修員受入れ等に関し懇談した。

(4)　１２月　２日（火）　　・セミナー会場（ＤＧＴの講堂）の視察および視聴覚機材の試験を行った。

・会場の責任者ＤＧＴの Lopez 広報部長と打合せ。

・通訳と最終的な打合せ

（各講師は日本語で講演し，通訳２人が交代で講師の隣りで逐語通訳することとする）

(5)　１２月　３日（水）　　・セミナー開催（１日目）

（司会・進行ー中川団員）

・出席者：今回のセミナー開催に当たっては，ＪＩＣＡ事務所よりメキシコにおける電気通信関係者１４０名に招待状を送付したところ，初日の出席人数は４５名であったが，その殆んどはＪＩＣＡの帰国研修員ではない人達であった。

・午前９時３０分

ＤＧＴ　Luengas総局長が「この機会に日本とメキシコの電気通信関係者の相互理解と日本の進んだ技術を学びたい」と開会の挨拶を行った。

・引き続き，増田団長より「日本の電気通信の概況と新しい技術紹介および両国電気通信関係者の率直な意見交換を行いたい」旨挨拶。

・両国関係者の紹介の後，セミナーが開始された。

・同9時５０分～１１時

「ＪＩＣＡ事業概況」の紹介－中川団員－「ＪＩＣＡのしおり（スペイン語版）」を使用して，ＪＩＣＡの各種事業を紹介した後，ＪＩＣＡの広報映画「ＪＩＣＡ２４時間（スペイン語）」の１６㎜映画を上映した。

「ＪＩＣＡのしおり（スペイン語版）」を配布。

・同１１時～１２時

「ＪＩＣＡの対メキシコ協力概要」の説明－細野ＪＩＣＡメキシコ事務所長－

ＯＨＰを用いて先進諸国の対メキシコ援助の説明に引き続き，ＪＩＣＡの協力概要の紹介を行った。

・１２時～１２時２０分　休　憩

（メキシコにおける通常の勤務時間は午前９時～午後２時３０分。）

・１２時２０分～午後３時

「日本の電気通信行政」の講演－谷脇団員（郵政省）－

新電気通信事業法下の市場競争原理導入の背景と現状について説明した。

郵政省作成の「OUTLINE OF TELECOMMUNI CA－TIONS ADMINISTRATION（英文）」を配布。

(6)　１２月　４日（木）　　セミナー開催（２日目）

・出席者　５５名

・午前９時３０分～同１２時

「日本の国内電気通信の現状と技術動向」の講演－平沢団員（ＮＴＴ）

スライドおよびＶＴＲを使用して「ＮＴＴの事業概要」および「ＩＮＳ（高度情報通信システム）の現状」について説明した。

ＮＴＴ作成の「INFORMATION NETWORK SYSTEM（英文）」を配布。

－ＮＴＴの活動概要－（約６０分，スライド１００枚）

・これまでのＮＴＴと新しい変革

・電気通信サービスの現状

・各種設備

・各種サービス

・各種活動

・結び

－ＩＮＳモデルシステムとその実験状況－

……（約３０分，ＩＮＳパンフレット）

・ＩＮＳの概念とその形成のステップ

・ＩＮＳを支える技術

・ＩＮＳモデルシステムの実験状況

・各種サービスと各種機器

－ＩＮＳモデルシステム

……（約２０分，英語：ビデオテープ）

・１２時～１２時２０分　休　憩

・１２時２０分～午後３時

「日本の国際電気通信の現状と技術動向」の講演－増田団長（ＫＤＤ）－

ＯＨＰおよびＶＴＲを使用して「ＫＤＤの事業概要」および「国際通信のための網管理センター」について説明した。

ＫＤＤ作成の「THE INTERNATIONAL NETWORK MANAGEMENT CENTER（英文）」を配布。

・ＫＤＤの事業概要

電話がみなし通話とＩＳＤ対地の拡張で急成長しているが，TELEX はファクシミリ，データ（電話のみなし通話）などに転換して急速にトラフィック量が減少している。

新プロジェクトとして，第３中央局の商用化（電話，テレックス，ディジタル電子交換機の現用化），第３ＴＰＣ光海底ケーブル，日本，韓国，香港光海底ケーブル，インド洋衛星にＴＤＭ／ＤＳＩシステムの導入，国際データ通信（回線交換形）サービス等

・網管理センター

小山通信センターの開設にともない国際関門局のた多関門化が完成しコンピュータによりルーティング，回線制御等の自動化を行いネットワークの効率的な運用を図った。

(7) 12月 5日(金)　セミナー開催(3日目)

・出席者　60名

・午前9時30分～同10時30分

「メキシコにおける電気通信の現状と今後の計画概要」についてDGTのMr. Tirado (Subdirector Commercial)が発表した。

メキシコ側にこの発表の機会を与えたことは，日本側関係者が引き続き行なわれる「討議」材料とすることが本来の目的であったが，加えてメキシコ側関係者に自国の電気通信事情に係る新たな認識を与える場ともなり，本セミナーが日本側の一方的な発表の場としてだけではなくメキシコ側と共同して実施しているという一体感を与える効果があった。

－メキシコ側プレゼンテーション概要－

・電気通信は政府が行うこととなっており，実施については各部局が関与している。

・通信運輸省(SCT)は公共サービスを主管としており，例えばTDMの一般公衆サービスのようなものを行なっている。

このほか，営業権許可制のサービスもあり，民間企業のみが，実施しているが，公共サービスは実施できない。私的な用途に企業が用いるものについて私企業に許可を与え，例えば，有線テレビ，音楽放送などが出来ないものについて代わりに実施依頼している。

・通信技術開発副省には電気通信局，国営電報局，テレリザベーションサービスの3つが関係し，この他にメキシコ領空航空サービスがある。

・通信規範規制局はサービス許可を与える業務を行っている。

・SCTの行っているサービスには，スイッチサービス，インフォメーションシステム，信号伝送サービス，その他(国内国際電信，海洋無線，農村電話，INMALSAT)がある。

・全国衛星ネットワークシステムとしてモレロス衛星2個を使用している。

恒常的に20%使用している。

現在は国内通信のみで国際通信はやっていないが，今後アメリ

カと協定を結んで，アメリカ間国際通信を検討中である。
今後需要拡大，料金低減を目指し新サービスを取り込む。国際競争力のあるものにしたい。
現在の利用状況は，ＴＶ，ラジオ，私的商業ＴＶ，国営ＴＶ，ＴＶ専用線サービス，電話，データ，ＩＮＦＯＲＳＡＴサービス，電報専用線など。今後の計画としてＩＮＦＯＲＳＡＴ－２，文書資料伝送，新聞紙面伝送，農村電話，放送教育大学，ＴＶ会議等。

- マイクロネットワークでは１１０のターミナルと２２０のアクティブレセプタを持っている。全長１６,０００km，ＴＶの伝送にも使われている。このほか国内航空会社や１５の沿岸局をもつ船舶無線にも使われている。内陸部に中継局はあるが，１０隻位が船上に地上局を持っている。メキシコ国籍の船との連絡は多い。
- ＴＥＬＥＰＡＣで２３都市間にデータ通信を行っている。今後５５都市に広げるとともに公共電話網にもつなげる。更に外国の網ともつなげる計画がある。パケット交換で実施。
  ２０台のパソコンをＴＥＬＥＰＡＣにつなぐ事ができる。インターフェイス用の機械を日本が支援してくれるようにお願いしたい。
- 電信伝送ネットワークは５６８９回線あり，２８０万ＣＨ・km。
  ＴＥＬＥＸ　ＴＥＬＥＧＲＡＰＨネットワークで構成。アメリカとの間では電報為替が非常に多く使用されている。現在これは手動だが，自動化を計画している。甲斐専門家が現在これを担当している。
- １０万人以下の農村には電話はない。ルーラル無線があるが，これより小さい村はサービスがないところもある。モレロスを使用しても行われている。
- ＩＮＦＯＮＥＴサービスをＴＥＬＥＰＡＣのユーザは使うこともできる。
- ＳＷＩＦＴサービスは金融伝送国際サービスで銀行間の世界的ネットワーククレジットカード関係，７銀行が加入している。
- ＴＶ伝送サービス
  国営のＴＶと国から営業権を与えられた民間のＴＶの２つがある。
  衛星ネットワークや国内ネットワークを使って伝送されている。

・テレオーディションサービス：広帯域音声音楽サービス，４ＫＨＺ or それ以上

・午前１０時３０分～午後３時

質疑応答，討論　－セミナー参加者全員－

主な内容は以下の通りである。（Ｑ＝質問，Ａ＝回答）

－電気通信一般－

イ.「Q」（ＮＴＴの民営化に関し）

日本の電気通信は，全国自動即時化の完成，通信システムのディジタル化をはじめとする通信技術の飛躍的な発展に成功しているにもかかわらず競争原理の導入の必要性がどこにあるか疑問である。

また，外資の参入にどのような対応するのか通信主権の関連でどうか？

「A」（谷脇団員－郵政省）

基本的な電気通信サービスは完成したが，世界的に付加価値の高い高度通信分野での発展とサービスの向上を目的にＮＴＴの民営化と競争原理の導入により活性化を図ることにした。

新電気通信事業法の施行により新規事業者の参入が可能となりＮＴＴ，ＫＤＤのサービス向上策が実施され，はやくも効果があらわれている。

外資の参入については部分的にはよいが，ある一定以上の割合の外資は当然制限し規制することにしている。現在，第２ＫＤＤの一部に外資が参加しており対応を検討中である。

ロ.「Q」ＩＮＳについて，ＣＣＩＴＴ勧告に準拠しているか？

また日本における新サービスのニーズはどうか？

「A」（平沢団員（ＮＴＴ），増田団長（ＫＤＤ））

ＩＮＳはＮＴＴが独自に開発したもので，ＣＣＩＴＴのＩＳＤＮと多少ととなるので，今後，国際化を考慮してＩＳＤＮの規格に適合したシステムを開発する計画である。

企業では，コンピュータ化がすすめられており，さらに

近年ＯＡ化が急速にすすめられニーズは高い。しかし個人レベルではようやくはじまったばかりであるが，マイコン，ワープロなどの普及により今後，急激に成長するものと予想される。

例としてＫＤＤの国際公衆データ交換サービスの個人加入顧客が全体の相当部分をしめていることを説明。

ハ.「Q」 日本におけるＣＣＩＴＴ勧告のＮＯ－７信号方式の研究状況？

「A」 （増田団長（ＫＤＤ），平沢団員（ＮＴＴ））

ＫＤＤでは，ＩＳＤＮ網の構築に必要なＮＯ－７信号方式は研究中ですでにハードウェアとしてディジタル交換機，伝送システムは実現しており８８年開通のＮＯ－３ＴＰＣ光海底ケーブルで国際間のＩＳＤＮの一部サービスの導入を計画している。

ＮＴＴのＤ６０，７０には既に導入されている。

ニ.「Q」 テレックスの需要は日本では減少傾向にあるがメキシコでは？

「A」 （ＤＧＴのMr. Tirado）

現在まだプラス１５％の成長率であるがこんご他網と接続するなど需要の拡大につとめている。

－経済技術協力－

（回答者　中川団員－ＪＩＣＡ）

イ.「Q」 ＪＩＣＡの技術協力は有償で実施されているのか？

「A」 ＪＩＣＡの技術協力はすべて無償で行なわれている。

ロ.「Q」 メキシコにおける電話事情改善のためには日本にはどのような援助方法があるのか？

「A」 ＪＩＣＡの実施している「開発調査事業」でフィージビリティースタディー等を行い，資金協力が必要な場合は日本の海外経済協力基金の円借款を受ける方法がある。

また，メキシコ政府が計画している電気通信プロジェクトに係るアドバイザーとしてＪＩＣＡは日本人専門家を派遣するという方法を有している。

現在，甲斐専門家をＤＧＴに派遣中である。

ハ.「Q」 衛星通信関係のプロジェクト方式技術協力のメキシコにおける可能性について知りたい。

「A」 その重要性は理解出来るが，途上国の中には未だ食糧生産に困難をきたしている国も多くあり，ＪＩＣＡとしては幅広い分野で協力を行なわなくてはならないので衛星通信分野は時期早尚と思われる。

ニ.「Q」 （衛星通信技術－上級－コース参加研修員より）
研修期間が少し短かかったと思うが延長することは可能か？

「A」 集団コースについては，毎回その研修内容を見直し改善につとめ，予算の許す限り期間の延長も考慮している。
当該コースについては，８７年から１週間の期間延長をした。

ホ.「Q」 個別研修に関する手続を教えてほしい。

「A」 メキシコ政府の推せんに基づく正式要請があればその必要性，受入先および予算等を検討し受入れを決定する。
詳しくはＪＩＣＡメキシコ事務所に照会願いたい。

ヘ.「Q」 日本民間通信機器メーカーにおいて技術研修を行うことは可能か，また，ＪＩＣＡを通して行うことも可能か？

「A」 日本の大手通信機器メーカーは独自の研修施設を有しており，プラント等の販売先からの技術者の訓練を行っている。
一方，ＪＩＣＡはＪＩＣＡの関係するプロジェクト等のカウンターパートをこれら民間メーカーに研修を依頼している。

(8) １２月　６日（土）　メキシコシティー発　サン・パウロへ移動

2. ブラジル（サン・パウロ）

1. 開催国・地　　ブラジル・サン・パウロ

2. 開催場所　　サン・パウロ州電気通信公社講堂

3. 開催年月日　　１９８６（昭和６１）年１２月１０日～同１１日（２日間）

4. 共催機関　　サン・パウロ州電気通信公社（ＴＥＬＥＳＰ）およびＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会

5. セミナー日程

１２月１０日（水）　（１日目）

（午　前）

(1)　９：００～９：３０　　富田ＪＩＣＡ同窓会長・大野領事および増田団長開会の挨拶

(2)　９：３０～10：00　　「ＪＩＣＡ事業概要」（中川団員）および「日本の電気通信行政」（谷脇団員）の説明

(3)　10：00～12：00　　国内電気通信（平沢団員）

イ．10：00～11：00　　「ＮＴＴの事業概要」スライドで説明

ロ．11：00～12：00　　「ＩＮＳ（高度情報通信システム）の現状」ＶＴＲ使用（１８分）

配布資料：INFORMATION NETWORK SYSTEM

（午　後）

(1)　14：00～17：00　　国際電気通信（増田団長）

イ．14：00～15：30　　「ＫＤＤ事業概要」
ＯＨＯを使用して説明
ＶＴＲ使用（２０分）

ロ．15：30～17：00　　「国際通信のための網管理センター」
ＶＴＲ使用（５分）

配布資料：THE INTERNATIONAL NETWORK MANAGEMENT CENTER

１２月１１日（木）　（２日目）

（午　前）

(1)　９：００～９：４５　　「ＪＩＣＡ事業概要」（中川団員）説明および１６㎜フィルム（ＪＩＣＡ２４時間）使用（２０分）

(2)　９：４５～10：30　　「ＪＩＣＡの対ブラジル協力」の説明
（北村ＪＩＣＡサン・パウロ事務所長）

配布資料：英文ＪＩＣＡのしおり

(3) 10:30 ～ 12:00　　「我が国の電気通信行政」（谷脇団員）の説明

配布資料：OUTLINE OF TELECOMMUNICATIONS ADMINISTRTION

（午　後）

(1) 14:00 ～ 15:00　　「ブラジルにおける電気通信の現状と今後の計画概要」の説明 Mr. Valente（TELESP）

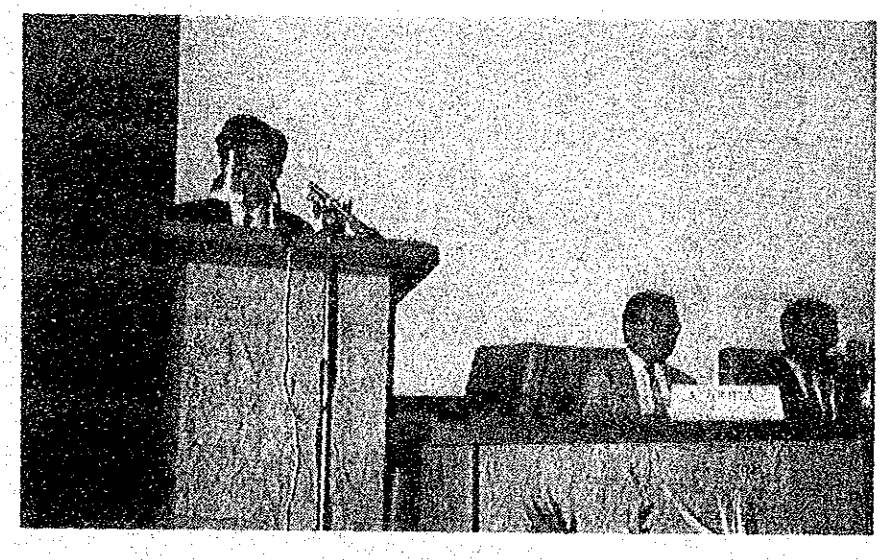
(2) 15:00 ～ 17:00　　討　論（日本に対する協力要望等について）
ー全　員ー

6. 関連写真（ブラジル）

ＯＨＰを使用して，国際電気通信に係る技術講演を行う増田団長（ＫＤＤ）

国内電気通信に係る質疑応答に答える平沢団員（ＮＴＴ）―右端立っているのは Dr. Kaufman 前 TELFSP 副総裁（ＪＩＣＡ帰国研修員でセミナーの司会，進行を担当した）

日本の電気通信行政に係る講演を行う谷脇団員（郵政省）



ＪＩＣＡの事業概要の紹介を行う中川団員（ＪＩＣＡ）
左へ富田ＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会長，大野サン・パウロ総領事館領事

7. 詳 細 日 程

(1) 12月 7日(日) サン・パウロ着

・北村JICAサン・パウロ事務所長，真下室長，佐々木所員，および富田JICAサン・パウロ帰国研修員同窓会長他関係者と打合せ

(2) 8日(月)

・JICAサン・パウロ事務所および通訳(上野義昭，伴子夫妻)と打合せ。

・在サン・パウロ日本総領事館表敬訪問
(小野総領事，大野領事，福寿副領事)

(3) 9日(火)

・サン・パウロ州電気通信公社(TELESP) Ignacio 総裁表敬訪問。

・TELESPビラマリアーナ電話局視察

＜ビラマリアーナ電話局概要＞

・ビラマリアーナ局ではステップ バイ ステップからクロスバーそしてディジタルまでの交換機が置いてあり，技術の進歩を見る事ができる。

・ビデオテックスサービスはフランスのテレテル方式を導入し，TELEBRAS の全国的な計画の下にTELESPが運営主体となって実施している。現在の加入者数は約12,000。サービス内容としては証券取り引き所とオンライン接続した株式市況情報などがあった。絵はモザイク方式。

・TELESPの組織には，管理部，サービス部，重要加入者部，施設部，トラフィク部，それに12の地域がある。

・ビラマリアーナ局は管内18.5平方km，加入者23.7万，ケーブル総延長703km，104は2,000 CALL/DAY，103は1,000 CALL/DAY，毎日の新設，修理オーダは350件となっている。

・ビラマリアーナ局の組織には，新設・修理部，局外設備部，サービス部，交換機保守センター，公衆電話部がある。
ローカル呼の通話完了率は50～60%，月100加入当たりの故障率は2～3件となっており，日本(0.47)にくらべ大きく差がある。
故障率については信じられないのか何度も質問をうけた。

・地下ケーブルは日本と同じ乾燥空気を封入するいわゆるガス保守を行っていた。

・ケーブル接続点には鉛管が使用されており，日本では２年前の世田谷局火災を契機として全部メカニカルクローシャに変えることとした旨説明し，彼らもこの事については関心を強く持っているようだった。

・光ファイバケーブルは２４心が一部交換機間のインターフェイスに使用されていた。

・セミナー会場視察（ＴＥＬＥＳＰ講堂）

視聴覚機材の試験および運営打合せ。

本件セミナーの運営にはＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会の富田会長，橋事務局長，新山会員，Kaufman 会員（ＴＥＬＥＳＰ 前副総裁），Lisboa会員（ＴＥＬＥＳＰ）他が精力的に当たってくれた。

(4)　１２月１０日（水）

・セミナー開催（１日目）

（司会，進行　Kaufman 前ＴＥＬＥＳＰ副総裁 －ＪＩＣＡ帰国研修員）

・出席者は２３０名にのぼり会場は満席であった。招待状の発送はＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会が行った。

出席者の殆んどはＪＩＣ　帰国研修員以外の人達で，リオデジャネイロ等からの参加者も含まれていた。

・通訳方法－日本側出席者は日本語，ブラジル側出席者はポルトガル語でそれぞれ発言し，通訳がブース内で同時通訳を行い，出席者各自がレシーバーで聞く方法をとった。

午前９時～同３０分

富田ＪＩＣＡサン・パウロ帰国研修員同窓会長，大野領事および増田団長が開会の挨拶

午前９時３０分～同１０時

「ＪＩＣＡ事業概要」（中川団員－ＪＩＣＡ）および「日本の電気通信行政」（谷脇団員－郵政省）に係る説明（骨子のみ）

午前１０時～１２時

「日本の電気通信の現状と技術動向」についての講演（平沢団員－ＮＴＴ）

－講演内容，方法，配布資料はメキシコの場合と同様－

午後２時～５時

「日本の国際電気通信の現状と技術動向」についての講演（増田団長－ＫＤＤ）

－講演内容，方法，配布資料はメキシコの場合と同様－

(5)　１２月１１日（木）

・セミナー開催（２日目）

出席者：約９０名（翌１２日に全国ゼネストが予定されていた関係等で減少）

午前９時～同４５分

「ＪＩＣＡ事業概要」の紹介（中川団員－ＪＩＣＡ）

－講演内容，方法，配布資料はメキシコの場合と同様－

午前９時４５分～１０時３０分

「ＪＩＣＡの対ブラジル協力概要」の説明

（北村ＪＩＣＡサン・パウロ事務所長）

午前１０時３０分～１２時

「日本の電気通信行政」の講演（谷脇団員－郵政省）

－講演内容，方法，配布資料はメキシコの場合と同様－

１２時～午後２時

昼　食

午後２時～３時

「ブラジルにおける電気通信の現状と今後の計画概要」についてTELESPのMr.Valente（DEPT OF PLANNING）が発表した。

－ブラジル側プレゼンテーション概要－

1）電気通信の現状

電話加入顧客；１１,４００千台

・交換機タイプ種類

ストロジャー	９％
クロスバー	８８％

全電子（アナログ）　３％

・伝　送　路

マイクロ（アナログ）

国内衛星

市内ケーブル（P−cable）

ＰＣＭ

2) 将来計画

	1990年	2000年
端　末　数	11,000千	25,000千
デジタル化率	25％	67％

・ＩＳＤＮ　１９９０年一部商用化にむけてＮＥＣ，エリクソン，シーメンス，等のメーカにパイロットプランとして試験実施中。

・新サービス

TELETEX

ファクシミリＧ３，Ｇ４

ビデオテックス（DIGITAL）１９９０年

メッセージハンドリングビ（MHS）サービス

TV−SELETIVE

TV−BAIXA

VIDEOTONE

午後３時〜同５時

質疑応答，討論−セミナー参加者全員。主な内容は以下の通りである。

−電気通信一般−

イ.「Q」　メキシコとおなじく日本の電気通信の民営化と競争原理の導入の理由がよくわからないとの質問が集中し，活発な討論が行なわれた。

「A」　（谷脇，平沢両団員）

メキシコの場合と同様の回答を行なった。

ロ.「Q」　電話の積たいが１５０万あるが対策は？

「A」　（TELESPのMr. Valente）

解消に努力しているが技術者が不足している。

ハ.「Q」　２０００年の情報化の見通しは？

「A」　（TELESPのMr. Valente）

今のブラジルの現状では，積たいの解消が先決である

７５０万の積たいが予想される。

また，低所得層を対象に公衆電話をふやしたい。

－経済技術協力－

（回答者は中川団員－ＪＩＣＡ）

イ.「Q」　ＪＩＣＡの研修員受入れに係る予算額は？

「A」　１９８６会計年度の研修員受入れ事業費は約１２６億円である。

ロ.「Q」　研修員受入れに係る手続について知りたい。

「A」　ブラジル政府の要請に基づく正式要請があればその必要性，受入先および予算等を検討し受入れを決定している。詳しくはＪＩＣＡの各事務所に照会願いたい。

ハ.「Q」　研修員に対する待遇について教えてほしい。

「A」　往復の渡航費，支度料，宿泊費，生活費，国内旅費等をＪＩＣＡが負担する。

ニ.「Q」　研修に使用する語学の種類は？

「A」　原則として英語で行っている。

ホ.「Q」　機材供与の方法について知りたい。

「A」　プロジェクト方式技術協力に係る供与，単独に機材を供与する単独機材供与等がある。

午後８時～同１０時

セミナー運営関係者との懇談会

日本領事館，ＪＩＣＡ事務所，同窓会，セミナーチームおよびTELESP関係者の出席のもとに懇談会を開催した。

(9)　１２月１２日（金）　・ＪＩＣＡサン・パウロ事務所，総領事館に報告。

・ＪＩＣＡサン・パウロ同窓会忘年会に招待されセミナーチーム全員に感謝状と記念品を贈られた。

(10)　１２月１３日（土）　・同窓会長富田氏および同会事務局長橘両氏の案内でサン・パウロ大学等を視察。

(11)　１２月１４日（月）　サン・パウロ発　東京へ

Ⅳ 検 討 事 項

1. メキシコおよびブラジル両国における本件セミナーは，初年度としては概ね成功したものと思料されるが，今後より充実した公開技術セミナー開催のために今回の経験から，下記の諸点の検討を行なうことが必要と思われる。

(1) 公開技術セミナーは従来の巡回指導と異なり，セミナーの企画，関係機関との根回し，募集等の国内および現地での作業に充分な時間をかける必要があるため少なくとも6カ月前にはセミナーの骨子を決定することが望ましい。

(2) また，この種セミナーは配布する資料，視聴覚教材等をいかに内容あるものとするかが重要な要素であるためそれらの作成にも充分な時間をかける必要がある。

(3) 公開技術セミナーは従来の巡回指導とは異なり専門分野を広げより多くの関係者を対象としたため，どうしても内容が一般的にならざるを得なかったため「もう少し専門的に深い技術の照会をしてほしい」との意見があったが，この点を今後どのように改善してゆくかが問題である。

(4) 今回のセミナー開催に当たっては現地機関との根回し，募集運営までＪＩＣＡの海外事務所や帰国研修員同窓会等に人員，経費面で相当の負担を負わせる結果となったため今後はこの点の充分な配慮が必要である。

(5) セミナーの分野は異なっても「公開技術セミナー」という形式のセミナーの企画から運営に至る手順についての共通の「マニュアル」を作成することが有意義と思われる。

(6) セミナーの成否は如何にこの種セミナーに充分対応出来る講師を確保出来るか否かにかかっているといっても過言ではないため，講師の選定については充分前広に推せん依頼を行なう必要がある。

2. この種公開技術セミナーの分野および開催地の選定に当たっては，以下の点に留意することが重要と思われる。

(1) 実施しようとするセミナー分野の我が国の技術水準が世界的に見てトップレベルにあり，かつこの種セミナーで充分な講演等が可能な講師が確保出来るか否か？

(2) 開催予定国において当該分野のＪＩＣＡの協力実績がかなりあり，また，先方相手機関にわが方専門家が派遣中等，何らかの協力が継続中であればさらに望ましい。

(3) 開催予定国に中規模以上のＪＩＣＡ事務所があり，さらに帰国研修同窓会の協力を得られること。

V　別　添　資　料

1. 主要面談者リスト

ーメキシコー

(1) Mr. Enrique Luengas Hubp, Director General De Telecomunicaciones (DGT), Secretaria De Communicaciones Y Transportes (SCT)
(通信運輸省電気通信総局総局長)

(2) Mr. Max Jimenez Arreola, Jefe Del Depto. De Servicio Telegrafico International, DGT, SCT.
(同省同局国際テレックス部部長)

(3) Mr. Jose Luis Lopez Chavira, Jefe Del Depto. De Comunicaciones Y Eventos, DGT, SCT.
(同省同局広報部長)

(4) Mr. Felipe Tirado G., Subdirector Comercial, DGT, SCT.
(同省同局事業部次長)

(5) Mr. Rodrigo Ramos Plascencia, Director, Escuela Nacional De Telecomunicaciones DGT, SCT.
(同省同局電気通信学園園長)

ーブラジルー

(1) Dr. Antonio Ignacio De Jesus, Presidente, Telecomunicacoes De Sao Paulo S.A.
(TELESP)
(サン・パウロ州電気通信公社総裁)

(2) Dr. Levy Kaufman
(TELESP前副総裁)

(3) Mr. Luiz Lisboa Monteiro, Analista de Sistemos
(TELESPシステム担当課長)

(4) Mr. Alberto Tomita, Presidente, Associacao Dos Bolsistas As JICA－Sao Paulo
(JICA サン・パウロ帰国研修員同窓会会長－ブラジル自動車工業会副会長)

(5) Mr. Toshiichi Tachibana
(JICA サン・パウロ帰国研修員同窓会事務局長－サン・パウロ大学教授)

(6) Mr. Susumu Niiyama
(同会会員－サン・パウロ大学教授)

2. セミナー案内状およびプログラム

(1) メキシコ

LA SECRETARIA DE COMUNICACIONES Y TRANSPORTES

y

LA AGENCIA DE COOPERACION INTERNACIONAL DEL JAPON (JICA)

Tienen el agrado de invitar a usted al

Seminario sobre

"El Desarrollo Técnico de las Telecomunicaciones

y la Cooperación Técnica del Japón"

Que se llevará a cabo del día 3 al 5 de diciembre de 1986,

(9:30 - 14:45 hrs.) en el Auditorio de la Torre Central

de Telecomunicaciones de la S. C. T.

México, D. F., diciembre de 1986.

SEMINARIO

(Sobre el Desarrollo Técnico de las Telecomunicaciones y la Cooperación Técnica del Japón)

Objetivo:

1) Presentación del trabajo de JICA.
2) Explicación de la Administración y Control de las Telecomunicaciones por el Gobierno del Japón.
3) Técnicas recién desarrolladas en Telecomunicaciones tanto domésticas como internacionales.
4) Intercambio de opiniones y deseos sobre la rama de Telecomunicaciones entre México y Japón.

Fecha: 3, 4 y 5 de diciembre de 1986.

Lugar: Auditorio de la Torre Central de Telecomunicaciones de la Secretaría de Comunicaciones y Transportes, ubicado en el Eje Central Lázaro Cárdenas - número 567, Col. Narvarte, México, D. F.

Horario:

3 de Diciembre (miércoles)

9:30 - Síntesis del Trabajo de JICA (Japan International Cooperation Agency).

11:00 - Cooperación Técnica del Gobierno del Japón a México, a través de JICA.

12:15 - Políticas de Telecomunicaciones en Japón.

4 de Diciembre (jueves)

9:30 - Telecomunicaciones Nacionales
* Presentación del Trabajo de NTT ISDN (Integrated Service Digital Network)

12:15 - Telecomunicaciones Internacionales
* Presentación del Trabajo de KDD
* Centro de Control de la Red de Telecomunicaciones Internacionales.

5 de Diciembre (viernes)

9:30 - Situaciones actuales de las Telecomunicaciones en México.

10:00 - Mesa Redonda

(2) ブラジル

ASSOCIAÇÃO DOS BOLSISTAS DA JICA – SP

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

SEMINÁRIO INTERNACIONAL DE TELECOMUNICAÇÕES

São Paulo, 10 e 11 de dezembro de 1986.

PROGRAMA

10 de DEZEMBRO

09:00 - 09:45	ABERTURA DR. LEVY KAUFMAN Coordenador do Seminário DR. ALBERTO TOMITA Presidente da ABJICA-SP DR. SUMIO ONO Consul Geral do Japão em São Paulo
09:45 - 10:45	DR. M. HIRASAWA - NTT Tendência e Perspectiva da Telecomunicação Japonesa . Generalidades sobre a atividade da NTT .. Reformulação .. Situação Atual dos Serviços .. Instalações .. Serviços .. Atividades
10:45 - 11:00	INTERVALO PARA O CAFÉ
11:00 - 11:30	. Sistema Modelo de Informação INS .. Filosofia e Programa de Introdução do INS .. Capacidade Técnica .. Aspecto Experimental .. Facilidades e Serviços Utilizados
11:30 - 11:50	PROJEÇÃO DE VÍDEO SOBRE O SISTEMA INS
11:50 - 12:15	DISCUSSÕES
14:00 - 15:30	DR. T. MASUDA - KDD Tendência e Perspectiva da Telecomunicação Internacional . Generalidades sobre Atividades da KDD .. Uso da Tecnologia de Ponta na Construção de Facilidades da Telecomunicação .. Serviços Prestados .. Pesquisa e Desenvolvimento
15:30 - 15:45	INTERVALO PARA O CAFÉ
15:45 - 16:45	. Centro Administrativo da Rede .. Retrospectiva da Introdução da Rede .. Capacidade de Instalação .. Administração
16:45 - 17:00	DISCUSSÕES

ASSOCIAÇÃO DOS BOLSISTAS DA JICA – SP

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

SEMINÁRIO INTERNACIONAL DE TELECOMUNICAÇÕES

São Paulo, 10 e 11 de dezembro de 1986.

PROGRAMA

11 de DEZEMBRO

09:00 - 09:25 DR. K. NAKAGAWA - JICA
Atividades da JICA

- . Estabelecimento e Objetivos
- . Formas de Participação
- . Envio de Especialistas
- . Doação de Equipamentos
- . Pesquisas Desenvolvidas
- . Cooperação Técnica pelo Sistema de Projetos
- . Programas de Cooperação para Desenvolvimentos
- . Emigração
- . Resultado das Atividades

09:25 - 09:45 PROJEÇÃO DO FILME
"AS 24 HORAS DA JICA"

09:45 - 10:00 DR. T. KITAMURA - Diretor da JICA-SP
Cooperação Técnica da JICA

10:00 - 10:15 INTERVALO PARA O CAFÉ

10:15 - 12:00 DR. M. TANIWAKI - Ministério das Telecomunicações
Política de Telecomunicações no Japão

- . Introdução
- . História da Telecomunicação no Japão
- . Privatização da Telecomunicação
- . Novas Perspectivas da Política de Telecomunicações
- . Medidas para Aplicação da Política
- . Final

14:00 - 14:30 MESA REDONDA PARA CONVIDADOS PREVIAMENTE INSCRITOS

- . Apresentação da situação das Telecomunicações Brasileira

14:30 - 17:00 DISCUSSÃO E ENCAMINHAMENTO

3. 修了証書（ブラジルの例）

ASSOCIAÇÃO DOS BOLSISTAS DA JICA – SP

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

SEMINÁRIO INTERNACIONAL DE TELECOMUNICAÇÕES

São Paulo, 10 e 11 de dezembro de 1986.

CERTIFICADO

Conferido a Mr. KAZUO NAKAGAWA

pela sua participação no Seminário Internacional de Telecomunicações.

Conferencistas: Teruo Matsuda
KDD – Kokusai Denshin Donwa
Massaru Harazawa
NTT-Nihon Telecomunicationand Telegraph

Masahiko Taniwaki
Ministério de Telecomunicações do Japão
Kazuo Nakagawa
JICA-Japan International Cooperation Agency

Alberto Tomita
Presidente da ABJICA – SP

Levy Kaufman
Coordenador do Seminário

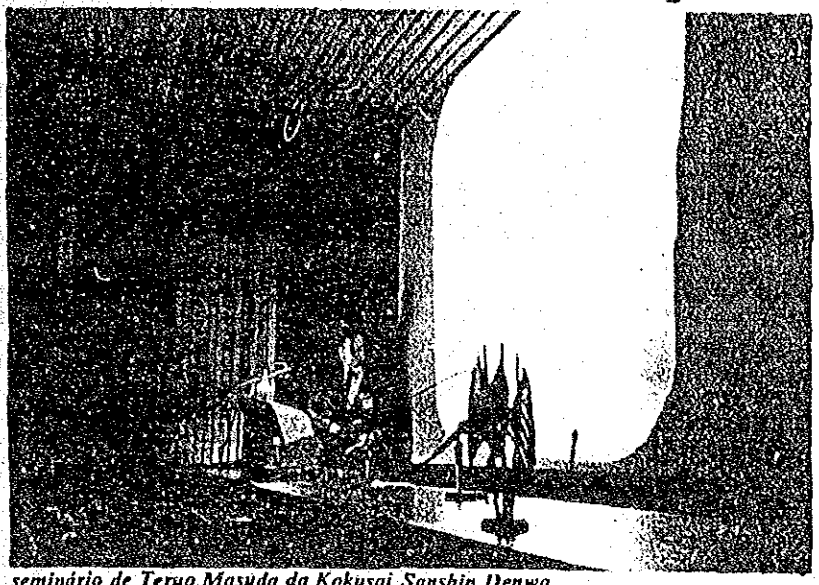
4. 新聞報道（サン・パウロ）

パウリスタ新聞（1986. 12. 11）

Seminário de Telecomunicações

Está sendo realizado no prédio da TELESP - Telecomunicações do Estado de São Paulo -, no bairro da Bela Vista, o I Seminário Internacional de Telecomunicações, realizado pela Associação dos Bolsistas da JICA - Japan International Cooperation Agency, com o apoio do Consulado Geral do Japão em São Paulo e da JICA.

Foram especialmente convidados para este evento Teruo Masuda, conselheiro da diretoria da KDD-Kokusai Sanshin Denwa-; Masaru Hirasawa, diretor da Divisão de Pesquisa da NTT - Nihon Telecomunication and Telegraph; Yasuhiro Taniwaki, coordenador da Seção de Cooperação Internacional do Ministério de Telecomunicações do Japão; e Kazuo Nakagawa, coordenador de Cooperação Tecnológica da JICA - Japan International Cooperation Agency.



seminário de Teruo Masuda da Kokusai Sanshin Denwa

Na programação de ontem, a abertura ficou por conta de Levy Kaugman, coordenador do seminário, em seguida Alberto Tomita, presidente da ABJICA (SP) - Associação dos Bolsistas de JICA - proferiu algumas palavras a cerca de 250 pessoas inscritas, seguido pelo adjunto do Consul Geral do Japão em São Paulo, Shinsaku Ono.

O primeiro palestrante foi Masaru Hirasawa que abordou a tendência e perspectiva das telecomunicações japonesas, as generalidades sobre a atividade da NTT, sistema modelo de informação INS, a filosofia e o programa da introdução do INS, sua capacidade técnica, o aspecto experimental, suas facilidades e serviços utilizados, e uma projeção de vídeo sobre o sistema INS seguido de discussões.

A programação terá prosseguimento, às 9h quando Kazuo Nakagawa, com tradução simultânea, sobre as atividades da JICA, o estabelecimento e objetivos, formas de participação, o envio de especialistas, doação de equipamentos, pesquisas desenvolvidas, cooperação técnica pelo sistema de projetos, programas de cooperação para desenvolvimento, emigração, resultado das atividades e uma projeção do filme "24 Horas da JICA".

No período da tarde o seminário de Yasuhiro Taniwaki sobre a história da telecomunicação no Japão, a privatização da telecomunicação, sobre as novas perspectivas da política de telecomunicação e medidas para aplicação da política.

Encerrando o seminário haverá uma mesa redonda para os convidados onde será apresentada a situação das Telecomunicações Brasileira, seguido de discussão e encaminhamento.

訳（要旨）：JICA，在サン・パウロ日本総領事館およびJICA帰国研修員同窓会の共催で電気通信国際セミナーが開催されている。

日本からの講演者が約250人の聴講者に対し，「JICA事業概要」，「日本の電気通信行政」および「国内・国際電気通信に係る最新技術」の紹介等を行っている。

日伯毎日新聞（1986，12，11）

Seminário sobre telecomunicação

Com a presença de três altas autoridades da área de telecomunicações do Japão foi aberto ontem o I Seminário de Telecomunicações Brasil-Japão que prossegue hoje na sede da Telesp, à rua Martiniano Prado, 451, numa promoção da Japan International Cooperation Agency – JICA –, Telesp e consulado Geral do Japão em São Paulo. Participam do encontro, dr. Teruo Matsuda, diretor da KDD, dr. Massaru Harasawa, da NTT e dr. Masahiko Taniwaki, diretor internacional da divisão de Política de Telecomunicações do Ministério das Telecomunicações do Japão.

Na abertura, falaram o dr. Levi Kauffman, da Telesp, Alberto Tomita da Jiça e o cônsul Sumio Ono seguindo-se depois a palestra "Tendência e Perspectiva da Telecomunicação Japonesa", pelo dr. Harasawa e "Sistema Modelo de Informação do Japão", pelo dr. Matsuda. Hoje, último dia, às 9 horas, está programada uma palestra sobre as atividades da Jica e sua cooperação técnica e às 10:15 hs o dr. Taniwaki fará um amplo histórico sobre a telecomunicação no Japão.

訳（要旨）；「電気通信に関するセミナー」

昨日，日本の電気通信分野の権威の参加を得て電気通信セミナーが開催され，日本の電気通信事情に関する講演が行なわれた。

本日もＪＩＣＡの事業概要や日本の電気通信行政についての講演が行なわれることになっている。

ガゼッタ紙（1986，12，14）

TELECOMUNICAÇÕES

Privatização de empresas japonesas agilizam o desenvolvimento do setor

por Lucilia Atos Medeiros
de São Paulo

A privatização das empresas japonesas de telecomunicações deu não só maior transparência às suas atividades, perante o público, como também beneficiou tecnologicamente o setor. O uso do telefone com cartão magnético, por exemplo, tornou-se uma rotina. Operacionalizou-se também um sistema central de gerenciamento para a remessa internacional de informações (telefone, telegramas e telex).

O sistema, totalmente automatizado, combina o uso de satélite com cabos submarinos, assegurando a manutenção das telecomunicações em um nível maior de eficiência e confiabilidade, mesmo durante a ocorrência de desastres.

A constatação foi feita por engenheiros da KDD e da NTT, empresas nipônicas de telecomunicações, durante o Seminário Internacional de Telecomunicações realizado em São Paulo, entre os dias 10 e 11 de dezembro. Patrocinaram o encontro o Consulado Geral do Japão e a JICA, agência japonesa de cooperação para países em desenvolvimento, que há dez anos firmou um acordo com o governo brasileiro.

Segundo Hiroshi Fukuju, vice-cônsul do Japão, o principal objetivo do seminário foi ampliar as bases do intercâmbio entre os dois países, no setor de telecomunicações, atualizando os programas de treinamento já existentes.

O intercâmbio da JICA com o Brasil — envolvendo basicamente cursos de treinamento e doação de equipamentos — contempla também as áreas de engenharia, construção naval, recursos florestais, medicina e meio ambiente, entre outros.

O setor de telecomunicações foi escolhido como tema deste primeiro encontro por representar, segundo Fukuju, um setor em que o nível de desenvolvimento tecnológico atingido pelo Brasil é considerado muito bom.

"A partir desta reunião, vamos aperfeiçoar os cursos, adequando-os às condições reais existentes hoje no Brasil", avalia ele. É intenção da JICA promover outros seminários do mesmo tipo, mas ainda não estão definidos as áreas nem os prazos.

Entre os projetos, trabalhados conjuntamente pela agência e por diversas instituições de pesquisa do Brasil, incluem-se o de desenvolvimento de indústrias de pequeno e médio porte, com o Instituto de Tecnologia do Paraná, e o de controle de poluição em Minas, com o Departamento Nacional de Produção Mineral. Além destes, há um convênio firmado com a Universidade Federal de Pernambuco, na área de imunopatologia, e outro com o Senai do Espírito Santo, para desenvolvimento de instrumentação industrial.

De acordo com Fukuju, já foram doados até hoje, no âmbito do acordo, cerca de US$ 30 milhões em equipamentos.

訳（要旨）：電気通信

「日本企業の民営化がセクターの開発を活発化させている」。

日本の電気通信企業の民営化は公衆およびセクターの開発に大きく寄与した。

電気通信分野における日伯両国の協力拡大のためにサンパウロ市において電気通信セミナーが開催されている。

ＪＩＣＡとしては今回のセミナーを皮切りに同種のセミナーを今後も開催したい趣きである。